



# コミュニティ しずおか

2022  
1月  
No.165



## 男性陣がお・も・て・な・し

ほんそんしも

ふれあい塾 本村下「コミュニティカフェ遊友会」(裾野市)

▼「お飲み物は何にしますか?」毎月第1、3月曜日に本村下公民館で開店する「コミュニティカフェ遊友会」。約30人が賑わう室内でおもてなしをするのは、お揃いのエプロンを付けた男性陣である。

▼男性のサロン参加率を上げるために、男性に給仕役を担当してもらった「遊友会」を平成31年に開店。給仕のお手伝いをしてもらえないかと声を掛けられた時「待ってました!と思ったよ」と語るのは今年90歳になる神田さん。狙い通り男性参加率が1割から4割へとアップした。

◇塾長:甲斐忠則さん(問合せ・055-993-6811(岩田さん)) 【情報提供・志田忠弘】

## Topics トピックス

活動賞審査結果…………… P2~3  
令和3年度「コミュニティ活動賞」審査結果  
クローズアップ…………… P6  
交流・体験で地域もいきいき(藤枝市)



「ミミック」  
のじゅき・しえ

# 令和3年度「コミュ

静岡県コミュニティづくり推進協議会主催の本年度「コミュニティ活動賞」は、表彰式を令和4年2月12日に開催するコミュニティフォーラム2022の席上で行います。

## 優秀賞

明倫地域まちづくり推進協議会(小山町)

### 明倫地域の住民が一体となり魅力ある住みよい町づくりに取り組み、町と連携し事業を推進する。“谷戸山にいだかれて 水音ひびく やすらぎの郷”



町の特産物水掛け茶。子どもに親しんでもらう摘みとり体験

中止にしたが、個人・家族で楽しめるようにした。

今後も自然豊かな地域を活用し「温かい地域」「安心して子育てができる地域」を目指して活動していく。

明倫地域では、2020年を目標にした地域活性化のためのまちづくり計画である「明倫地域金太郎計画2020」を住民主体で作成した。その計画に基づき、①ホテルの乱舞に歓声上がるホテル観賞ウォーキング②収穫の喜びや地元愛の強化を促すジャンボカボチャ・ハロウィンカボチャの栽培と無料配布③地域の魅力を知り素晴らしい自然を肌で感じる谷戸山ハイキングによる地域探訪を3つの柱として行事を実施している。

毎年実施していることから、こども園、小学校の子どもたちが参加してくれる。ホテルは自生のため地域の環境のすばらしさを実感している。栽培したヒマワリは、満開時にはこども園、小・中学校に配布し、近所の方や消防署や商店にも配布し飾ってもらっている。

コロナ禍では、密にならない行動に配慮し、体温測定や手指の消毒等の励行に努めた。集団での谷戸山ハイキングは

## 優良賞

チームおもしろ五和駅	島田市
特定非営利活動法人 御前崎災害支援ネットワーク	御前崎市
りんりん会	浜松市
高町第3日曜市場	浜松市

## 奨励賞

チーム防災いずのくに	伊豆の国市
IZUCCO制作実行委員会	伊豆の国市
子遊会	沼津市
月曜会	吉田町
リアル野球盤協会	島田市
高台ワピ	浜松市

※当協議会HPでも紹介しております。

# ニティ活動賞」

ここで紹介する優秀賞2団体ほか、別表のとおりです。なお、優秀賞、優良賞の

## 優秀賞

フラワータウン和地(浜松市)

### 花と緑のまち浜松を推進



ビニールハウスで種から苗を育てている

平成5年、バス停や交差点でのポイ捨てなどの地域のごみ問題を解決したいと思い「地域を花で飾ればごみの不法投棄が減るのではないかと考え、地域の皆さんの協力を得てスタートした。

会長がビニールハウスを提供し、会員がローテーションを組み、種から苗を育て、日々の世話をしている。それにより苗を購入するより安価にすることができたが、苗を育てる技術が難しく幾度も失敗し苦労した。育てた苗は、和地幼稚園児と和地小学生と一緒に篠の谷北公園、篠の谷南公園に植え付けたり、浜松西インター前、和地協働センター、すじかいばし交差点等の公共花壇に植え付け等、公共花壇の整備、地域挙げての花いっぱい運動を行ってきた。

活動していく上で貴重な緑を守り親しむとともに、豊かな心を育み、ゴミの不法投棄の減少、住みよい環境づくりを推進することができ、浜松市の花と緑の推進運動に貢献した。

今後、会員の高齢化という現実的な問題もあるが、健康には十分気を付けながら、地域の活性化及び環境による住みよさが実感できるまちづくりに貢献していく。

#### 審査総評 (川口良子 審査委員長)

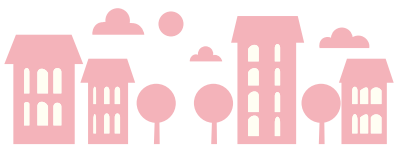
本年度の活動賞は、優秀賞2団体、優良賞4団体、奨励賞6団体となりました。

応募数は、5市2町の昨年度と同じ12団体とやや少ない件数でした。コロナ禍が続く中、コミュニティ活動には大変厳しい環境が続いていることによるものと推測します。

審査においては、ホタル観賞ウォーキングや耕作放棄地での野菜作り、里山ハイキングなど、地域資源を活用した多世代が参加する活動を続ける団体や、地域のごみ問題の解決を発端に、種から苗を育て、東名インター入り口や公園などの地域内の各所を、多くの会員が地域の人と共に、長年、花いっぱい地域づくりをしている団体といった、自分たちの住む地域での「地域ぐるみ」の活動が、審査委員に強いインパクトを与えました。

また、荒れた無人駅を綺麗にして、地域の拠点として活性化させている団体、災害地域でのボランティア活動や他団体への講師派遣に取り組む防災のNPO法人、地域課題を自ら把握して買い物機会の地域住民が触れ合える場を提供する活動、お弁当やお菓子の配布を通じて高齢者との交流を40年続けている団体などが審査委員の高い評価を得ました。

審査の過程で、多様化するコミュニティ活動への評価の視点に関して熱心な議論が行われました。一定の地域を対象とする性格は薄いものの、他のコミュニティ活動を支援する活動に対して、審査委員会として特別な賞を授与しては「という議論もされましたが今後の検討課題とされました。



# まちからむらから



## 松崎町 歌で繋がり、元気で明るく連帯感のある町へ

松崎町のうたを  
育てる会



松崎を思う心が1つになったコンサート

▼2017年12月「FULL-SATO」-松崎町と歌を育てる-という取り組みにより「松崎町のうた」のメロディが完成した。町民に広めるためには、町民自らが活動を引き継ぐ必要があると感じた石田代表らは翌年6月「松崎町のうたを育てる会」を発足。

▼何といても一番の特徴は、この歌には100を超える歌詞がある事。町内各地区で松崎町のうたの歌詞を作るためのワークショップを行い、子どもからお年寄りまで町民一人ひとりの思いがこもった歌詞が誕生した。2019年12月に町民が作詞した「松崎町のうた」を披露するコンサートを開催。1時間半のコンサートで流れるメロディは1つだけ。曲ごとに伴奏を変え、歌詞に合わせた演出を工夫し、出演者と観客合わせて人口の1割となる約600人が歌を通じて一体感や感動を共有した。

▼この熱を継続していこうと2020年からは会が主体になり、健康体操の作成、歌の定期練習会、町内の時報を松崎の歌へ変更等、町民に愛

される歌になるよう活動。今後も町民たちを繋ぐ共通の歌として、人々が鼻歌で歌うくらい広がっていく事を目標に活動していく。※令和4年1月23日に「松崎町のうたコンサートPart2」を開催

◇代表:石田初恵さん(問合せ・0558-43-0138)

【情報提供・富川あおい】

## 函南町 みんなでつくるコミュニティ農園

ときどきファーム

▼令和2年9月、元気なシニア層を対象に、社会参加で介護予防、参加者交流を目的にコミュニティ農園が開園した。函南町社会福祉協議会が中心となり、65歳以上を対象に募集。野菜づくりに興味があるけどわからない人が農家の方からアドバイスを受け、みんなでゆるやかな農園活動をしている。

▼会員同士の交流を目的にしており、畑の区画を各々で区切るのではなく、同じ区画を耕し作物を作る工夫をしている。野菜がたくさん収穫できる時は、近くの保育園児と一緒に収穫体験。会員の提案で始まったこの交流をみんな楽しみにしている。また、自動車販売会社の地域貢献活動「コミュニティカフェ」に野菜を出すなど地域交流へ広がっている。

▼現在、会員26人。毎年会員を募集しているので、2年目の今年は一期生が先輩となり新規の方へ教えている姿が見られた。この先、経験者が増えていくことから、更に休耕地を活用し元気なシニア層の社会参加を進めていきたい。

◇(問合せ・055-978-9288(函南町社会福祉協議会))



仲間と楽しく野菜づくり

【情報提供・虎尾恵美】

## 島田市 川根の町を明るく灯す!天王山イルミネーション

天王山冬まつり  
イルミネーション実行委員会



冬の夜、住民の心を温めるイルミネーション

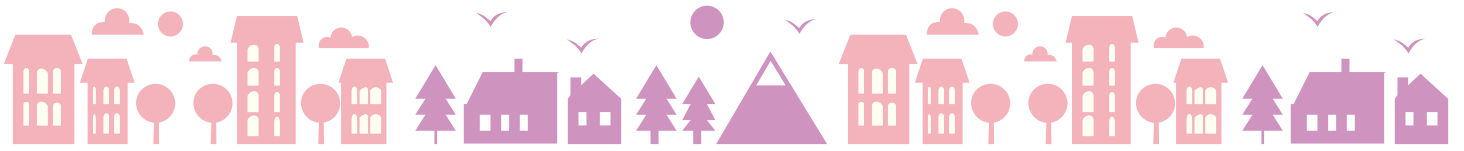
▼毎年12月20日前後になると毎夜、島田市家山駅近くの天王山公園が輝きだす。2007年「川根にも冬の風物詩を作り、寒い中来てくれた人たちに喜んでほしい!」という地元の青年団を中心にスタートした「天王山冬まつりイルミネーション」は今年で14回目を迎える。

▼デザインや飾り付けはド素人だが、気持ちが伝わったのか数年後に行政の支援が付き、イルミネーションの規模も徐々に拡大。現在、地元NPOの支援、住民の寄付や協賛を募りながら運営している。特に「今回は何を更新できるか?」「どうやったら皆に喜んでもらえるか?」と毎年少しずつでも1年前の自分たちを更新できるように積み重ね活動をしている。

▼今年は12/19~2/14まで開催。使用するライトは50,000球以上、飾りつけには地元青年団に加え、実行委員のメンバーや地元の小中学生・住民も参加しての共同作業。今回は一度途絶えた「野守の池湖上イルミネーション」の復活予定!今年も新たなチャレンジを目標に、実行委員会も気合が入っている。

【情報提供・村松遼太郎】

◇代表:諸田泰宏さん



御前崎市

## 福田沢の里山風景を温存

福田沢保全会

▼御前崎市比木地区を流れる福田沢川は、電柱や民家、防霜ファン、自動車の往来が無く、自然の風景が温存されている。川沿いには約1.2kmの「散歩道福田沢」と名付けられた自然公園がある。

▼春は600本の河津桜、夏はゲンジボタルが乱舞し、水田や沢に映し出される光は幻想的。秋は黄金色の稲穂が揺れ、稲掛けの風景ものどかさを感じさせる。冬、派手さは無いが草木の黄金色のもの悲しさ、静けさ、陽だまりの暖かさを感じ四季折々の風景を楽しめる。

▼その里山風景を管理しているのが「福田沢保全会」。川沿いに田んぼを所有している27軒の集落からなる団体。当初は各々で管理していたが、平成13年に地域活動とした。草刈りや樹木伐採、トイレ掃除の他、毎年河津桜30本を植樹している。その苗のいくつかは散歩を楽しんでいる人から「何もしなくて悪いから」と寄付された。「1,000本桜を目指しています。一緒に活動してくれる人を募集中」と代表。癒し、憩い語らいの場として活動を続けていく。

◇代表:高畑敏雄さん(問合せ・090-3455-9084)



隠れた河津桜の名所「散歩道 福田沢」

【情報提供・岡村 靖】

浜松市

## 安心して暮らすための支援

蒲地区社協 家事支援  
子育て支援ぬくもり



地域の頼れる存在として活躍している

▼2007年に発足した「ぬくもり」は、蒲地区内の子育て家庭や独居高齢者や高齢世帯を対象に家事等の支援を行い喜ばれている。きっかけは民生委員をしていた前代表が、町の高齢者にアンケートをとった結果、少しの支援で安心して地元で暮らせるのではないかという思いから始まった。

▼1時間600円で、年間450件ほどの依頼がある。子育て家庭は子守りの依頼が多く、高齢者家庭は掃除の依頼が多い。コロナ禍になり全体的な活動数は減ったが、逆に子育て支援の依頼は増えたという。利用者の多くは通勤族の方で「夫以外の大人と久しぶりにお話しました」と言うママが多い。また、高齢者宅へお掃除に行くとお話をしたい高齢者が多いという。

▼依頼があるとコーディネーターが面談し、出来る出来ないの線引きをはっきり伝え、依頼されたこと以外は行わないルールをスタッフにもお願いしている。スタッフ13人の平均年齢は68歳。「支援終了後も通勤先から送られてくるハガキや助かったと喜ばれると嬉しいですよ」と代表。今後も寄り添い安心して暮らす支援をしていきたい。

◇代表:熊岡呂子さん(問合せ・053-461-1496)

【情報提供・佐藤勝彦】

### 地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます (アドレス <http://www.sizcom.jp>)

No.	市 町	活 動 名	主 催 者	趣 旨・目 的	月 日
1	伊東市	第62回 2021年森の露店市&森の音楽会	森の露店市実行委員会	森林浴を楽しみながら「人と自然」「人と物」「人と人」とのふれあいを。	令和3年 10月30日、31日
2	伊豆市	農地を活かし地域を元気に	中伊豆体験農園管理組合	耕作放棄地の解消と農業体験を通じた都市と農村の交流(グリーンツーリズム)を目的とする。	通年
3	沼津市	健康麻雀で仲間づくりを	沼津健康麻雀協会	高齢者の居場所づくりとして、高齢者の生きがい及び仲間を作る。	今沢地区:週1回 市社協:月2回
4	小山町	小山町民の献眼活動は世界一	小山ライオンズクラブ	「未来へつなげる まごころの奉仕」をスローガンに、献眼活動・献血活動・インターの清掃活動をしている。	24時間365日
5	御殿場市	手作りごはんてみんな笑顔に!	プラスマ委員会	ひとり親家庭などの孤食の防止や多世代交流、ワークショップ等体験の場の提供。	月1回
6	焼津市	有志で楽しく地域活動	燦燦会	家族みんなが集まれる場所を作り、子どもたちの喜ぶ企画をして実行する。	海岸樹木伐採:月1回 地元祭り等:年3回
7	袋井市	子どもたちとの触れ合いが 楽しく生き甲斐に	浅羽東小放課後 子ども教室	子どもとシニアが交流し、豊かな人間性やたくましい心身を育む。	毎月第2、4水曜日
8	磐田市	高齢者の為の施設「うたふく」の運営	特定非営利活動法人 羊の会	引きこもりがちな高齢者に対して、他者との交流や生きがいを見つける場。	週5回
9	森町	森町の文化再興!!	森町文化再興の会	歴史文化を掘り起こし広報し後世に継ぎ町の発展に尽くしたい。	月1回

## クローズアップ

創意工夫や新しい手法を活かしている団体を紹介します。



田植えの後は、かまどでご飯炊き体験。おいしくいただきます。



ひだまりの前にある田んぼで田植え体験



左から  
大塚政治さん(焼き芋担当)  
大塚克明さん(前代表)  
大塚直巳さん(代表)  
大塚鋭一郎さん(門松担当)  
手島克訓さん(事務局)

# 交流・体験事業で地域もいきいき

## 助宗ひだまり倶楽部(藤枝市)

藤枝の市街地から車で15分、自然が豊かで「ほどよい田舎」の助宗地区。この地域の資源を生かした「まちとむらの交流・体験事業」を通して活性化を推進しようと、平成27年「助宗ひだまり倶楽部」が発足しました。明治30年建築の「古民家ひだまり」を拠点に、田舎暮らしを体験したい人に、年6回、農業体験や地元食材を使った食の体験を提供。会員は9組のご夫婦からなり農業をされている方が多く、米作り、焼き芋づくり、ミニ門松づくり、ピザづくりなどそれぞれの得意分野を活かした活動をしています。

### 「助宗の良さ」を実感できるプログラム

コロナの影響が小康状態となった10月23日、秋晴れのもと11組35人の親子が参加して「サツマ芋掘りと焼き芋づくり体験」を開催。街では見ることが難しいモグラや蛇にも出会えます。汗をかいて掘り上げて「大きい!」と歓声、収穫した後は「ホクホク甘い」焼き芋に。大きな釜で炊いたサツマ芋ご飯と助宗産の野菜が入った豚汁にはお代わり続出。里山の魅力満載の秋を楽しみました。

プログラムは全て単発での募集をしていますが、聞くところによると毎年家族で参加される方もいるそう。毎回2/3がリピーターなので、数字に参加者の満足度の高さが現れています。

### 活動拠点の「古民家ひだまり」

会員の手島さんが所有する古民家ひだまり。市の職員として中山間地域活性化事業に携わっていたことから「退職後も地域活性化に関わりたい」と雑草に覆われていた空き家を購入。地域の方々の協力により趣のある古民家に一年半かけて改修し、幼馴染や青年団仲間だった友人に声を掛け倶楽部を結成。声を掛けられた側は「良いことだけどエライことになった」「なぜ苦労して他所の人を楽しませるの?」と驚きや迷いも

ありましたが、中山間地域を元気にするという活動目的を理解して受け入れてくれました。その後活動場所として開放し、倶楽部で管理運営をしています。

### 息の長い活動を地域と共に

今年で7年目を迎えるにあたり感想を聞いてみると「参加して良かった、息抜きにもなる」と好意的な感想をいただきました。今後について尋ねると、体験プログラムは街から参加する人が多いので、地元の子もたちが参加する「恵比寿講祭り」のような活動にも意欲を示されました。

当初「10年を一区切り」と始めたものの、思いがけない好反応を得たことで息の長い活動にしたいと会員の皆さん。今後の運営を考えると地元を知る後継者が課題のようですが、「みんなの気軽な居場所に。そうだなあ、赤ちょうちん下げて健全な居酒屋も悪くないな」の意見に「それもいいな」と皆さん笑いながら応じていました。

### お話を伺って

地域の特色を見極め構成したプログラムは、内容ごと指導役が変わることで、当り前に出来る事が役に立つ喜びが生まれています。また、参加者が口コミやSNSで「助宗の良さ」を拡散してくれるのも励みになっていることでしょう。地域活性化は順調に進行中、今後の展開が楽しみな倶楽部でした。次の訪問では参加者の胃袋をつかんでいる女性陣、奥様たちにも是非お会いしたいです。

◇代表：大塚直巳さん(問合せ・090-1620-6199(手島))

【情報提供・手島克訓】



レポート：海野ふさ子 編集委員

## 特別レポート

熱海市の土砂災害では、写真約6万枚、手紙約千通、位牌（いはい）・遺影約20点、ランドセルなどのかばん約30点など計10万点超の拾得物（思い出の品）が熱海市に届けられました。きれいな状態でお返しする為に、洗浄作業ボランティアに参加された大熊タイ子さん（コミュニティ静岡熱海市情報通信員）にレポートして頂きました。

## 熱海市伊豆山地区土砂災害ボランティアに参加して

熱海市情報通信員 大熊タイ子

令和3年7月3日、伊豆山地区大規模土石流災害により尊い多くの命が失われてしまいました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に謹んでお悔やみ申し上げます。

この度、熱海市花の会を中心に熱海市赤十字奉仕団の方々3、40人のご協力を頂いて、旧網代小学校校舎を使用して、泥砂の中から掘り出された全ての物を洗浄するという作業が7月中旬よりボランティア活動として始まりました。

災害地より掘り出された泥まみれの写真、手紙、大切な書類や遺影・位牌、その他あらゆる物が掘り起こされ、莫大な量が学校に運ばれていました。毎日お弁当持参での洗浄作業が続きました。被害に遭われた方々の事を思い、1枚でもきれいに元に戻してお手元にお返しをしたい一念でやりました。日々の作業で減ってくると又現地より新しい物が届く…。先の見えない作業と猛暑の中で、少しずつ参加者に疲れが見えてきておりました。8月19～31日までの休止連絡は、正直『ホッと』した思いもありました。

9月からの作業は、職員の方も加わり新たな気持ちで1日も早く被害者(所有者)の方にお届けできるように、一丸となって頑張りました。

10月に入ってからボランティアによる洗浄作業が無くなり、遺留品が出てきた時は職員の手で作業をして頂くこととなりました。10月8日から被害者への受け渡しを開始する運びとなりました。

洗浄された物は、役所の方々の手できれいにまとめられております。この作業も大変な作業です。すっかりきれいになった品々は、伊豆山町の民生委員、町内会長さんにどなたの物かを見て頂き、お手元に戻すようお願い致しております。たった一つでも被災された方々に戻られる事を願っております。

最後に一緒にボランティア活動をした仲間の声をお届けします。



書類はヘラやハサミを使い1頁ずつ剥がし泥を落とす



洗浄後、吸水紙の上で4～5日乾燥させる

- ・写真を洗いながら、皆、幸せそうに写っていて、こんな風に幸せそうにしている時の大切さと、災害とはこの幸せな時間を一瞬で奪い去るものなのだと考えさせられました。
- ・ある日アルバムを洗っておりましたら、きれいな写真が1枚出てきました。その時は本当に嬉しかった。隣の方も微笑んで、「良かったね」と互に喜び合いました。この様な時が1番やって良かったと思います。
- ・高齢なので体は大変ですが、被災された方々を思うと、とても可哀想でここ2ヶ月の間、毎日参加させていただきました。

※写真については8割返還され、倒壊した家屋など場所が確定している物は、ほぼ持ち主に返されました。流出取得物はそのほとんどが持ち主不明のままの事。旧網代小学校にて令和4年1月末日まで引き渡しを行っております。



地域情報をお寄せ下さい!

## 静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856  
 静岡市葵区駿府町1-70 総合社会福祉会館3階  
 【TEL】054-251-3585  
 【FAX】054-250-8681  
 【URL】<http://www.sizcom.jp>  
 【E-mail】[sizucum0829@po.across.or.jp](mailto:sizucum0829@po.across.or.jp)

地域活動に関心のある方へ!

お知らせします

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

コミュニティ・フォーラム2022

## どうやってつなぐ? 大切なコミュニティ

2022.2/12(土)  
12:30~15:40

入場は  
御前崎市民  
及び  
関係者のみ

会場 御前崎市民会館  
(御前崎市池新田5585番地)

プログラム

- 12:00~ 会場入場
- 12:30~ 開会 主催者・来賓挨拶
- 12:45~ 表彰式 令和3年度コミュニティ活動賞
- 13:00~ 講演(トークショー)  
演題 「このまちに生まれ 次の世代に伝えたいこと」  
講師 飯塚翔太氏
- 14:10~ 休憩
- 14:20~ 活動発表・ディスカッション  
コーディネーター 小泉祐一郎氏
- 15:40 閉会

すべてのプログラムを  
You Tube **ライブ配信**します。  
詳細は裏面またはホームページをご覧ください。



©Agence SHOT

トークショー

「このまちに生まれ 次の世代に伝えたい事」  
～オリンピックを経験して～

飯塚 翔太氏 ミスノトラッククラブ所属



©Agence SHOT



飯塚選手に聞いてみたい事 募集中!

左記QRコードを読み込んで入力してね。  
アドバイスをもらえるかもしれないよ。

## 活動発表・ディスカッション「どうやってつなぐ?大切なコミュニティ」

- 発表団体：令和3年度コミュニティ活動賞受賞団体ほか
- コーディネーター：小泉祐一郎氏 (静岡産業大学経営学部教授)

※新型コロナウイルス感染防止のため、入場はコミねっと会員表彰者等関係者、御前崎市民のみとします。

## 令和3年度コミュニティカレッジ終了!



通算42回目となるコミュニティカレッジが12月11日に終了しました。  
 会場とオンラインのハイブリット形式で開催。参加意識を高めるため会場にはリモート参加者の顔がモニターに映し出されました。  
 最終日は、全員会場参加。ワークでお互いの課題について話し合いました。  
 今年度は計23人が修了し、昭和55年からの修了者は2,353人です。



## 常務のつ・ぶ・や・き

様々な立場や考え方を尊重することを大切にしている時代だから、心に響くところは人それぞれ異なってくる。それでも、「深い愛情や熱い思い」にグッとくるのは世代を超え人類共通だと思う。

それを証明したのが、今年、大ヒットしたアニメ「鬼滅の刃」だ。残念ながら映画館での上映は見逃してしまったが、毎週のTV放映で知らず知らずのうちに心を奪われている自分に驚いた。

シリーズに一貫しているのは、主人公竈門炭治郎の一点の曇りもない優しさや愛情だ。それは誰にも隔てなく、悪事を欲しいままにする鬼に対しても注がれる。「将来、炭治郎みたいな子に育ててほしい」と誰もが思うのもよく理解できる。

「立派にできましたよ」母の言葉が煉獄杏寿郎の脳裏に届いた。「弱き人を助けることは強く生まれた者の使命」。母と交わした約束を全うできたことに実感し、こぼれんばかりの笑みに。

この場面で涙腺崩壊した皆さんは愛情豊かな方に違いはない。こういう皆さんは地域リーダーとしての素地を持った人と心強くも思ったところだ。